

700-0985
 岡山市北区厚生町 3-1-15 岡山商工会議所ビル 2F
 (一社) 岡山ビルメンテナンス協会 青年部会
 TEL: 086-225-8660
 Eメール: okbm1@lime.ocn.ne.jp



30号

編集・発行: 一般社団法人岡山ビルメンテナンス協会 青年部会 広報委員会
 平成 25 年 6 月 25 日 発行 (通算 30 号)

岡山青年部たより

ビルクリーニング技能競技 中国大会 in 岡山開催

1位は橋本大介選手 (山口)

さる2月21日に岡山商工会議所において「第12回ビルクリーニング技能競技中国大会 in 岡山」が開催されました。中国5県から選抜された16選手により、熱のこもった流麗な競技が繰り広げられました。

厳正な審査の結果、山口県協会代表の橋本大介選手(株式会社ビークルーエッセ)が1位の栄誉と、10月末にさいたまスーパーアリーナで開催される全国大会出場権利を手にしました。



当日は山田大会実行委員長の開会宣言、中野大会会長の開会あいさつ、木下一彦選手の選手宣誓の後、競技開始となり、岡山商工会議所4階の特設競技会場で、A・B2コート×8組、合計16名の競技が繰り広げられました。

何ヶ月もの練習の成果を出し切れた選手、緊張や隣のペースに影響を受け、ベストの作業ができなかった選手・・・

各組競技後には選手へのインタビューを設けていたのですが、汗を拭きながら見せる満足げな表情とか、悔しさを滲ませたインタビューの内容で選手各人の自己評価がよく分かり、見ていて興味深かったです。

また、1階では総合資機材フェアが開催され、目当ての選手の競技の前後に訪れる応援の方々や大会関係者でにぎわったようです。

7名の審査員による審査の結果、1位は冒頭の橋本大介選手。2位、島根協会代表の加藤哲平選手(北陽ビル管理株式会社)3位、広島協会代表の小玉英貴選手(株式会社オオケン)が入賞し、我が岡山協会にとっては少し残念な結果となりました。

最後に次回開催県である島根協会の幡会長による閉会あいさつ、山田大会実行委員長による閉会宣言がなされ、盛会裏に幕を閉じました。

橋本選手には中国地区代表として悔いの残らない研鑽を重ねていただき、10月にはベストパフォーマンスを全国の方に披露し、必ずや満足のできる結果を残されるよう岡山青年部も応援しています。(藤原)

後列右より	清水選手 (16番・岡山)	前列右より
三島選手 (11番・島根)	2位	加藤選手 (島根)
河崎選手 (13番・山口)	1位	橋本選手 (山口)
呼坂選手 (12番・広島)	1位	橋本選手 (山口)
矢島選手 (鳥取)	1位	橋本選手 (山口)
大久保選手 (鳥取)	1位	橋本選手 (山口)
井上選手 (岡山)	中野大会会長	
木下選手 (9番・岡山)	中野大会会長	
中列右より	宮下大会副会長	
多久和選手 (6番・島根)	3位	
門脇選手 (10番・鳥取)	小玉選手 (広島)	
北濱選手 (4番・岡山)		
佐伯選手 (3番・山口)		
村上選手 (2番・広島)		

第12回ビルクリーニング技能競技中国大会の感想



結果発表で自分の名前が読み上げられた瞬間は、喜びや驚きよりも「安心した」というのが本心でした。

社内大会、県予選と連続して優勝することで、自分の中で大きな自信となっていたつもりでしたが、当日、ウォーミングアップ室で練習をしたとき、緊張と不安で頭の中が真っ白になり、平常心を失った状態でした。

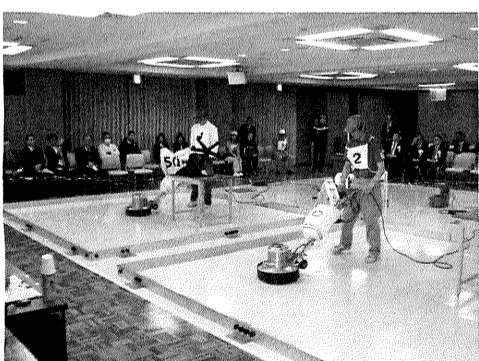
しかし、全国大会に出場した経験のある先輩がくれた「応援に来てくれている会社の人が強い味方になり、パワーをもらえるので、楽しんできたらいいよ」との言葉を思い出し、かなり落ち着いていた状態でスタートの合図を聞くことができました。

出だしこそ固さはありましたが、徐々に自分本来の力を発揮することができ、「練習は嘘をつかない」ということも証明できたと実感しています。

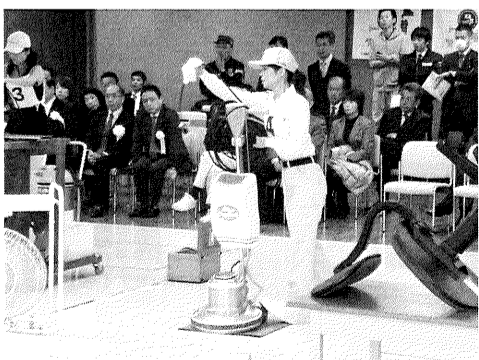
今回の優勝をさらに自信に繋げ、ひとつひとつの工夫の精度を上げ、リズムを作り出すことをテーマに、さらに技術を磨き、全国大会では100%の力を発揮し、頂点を目指したいと思っています。

株式会社ビークルーエッセ 橋本 大介

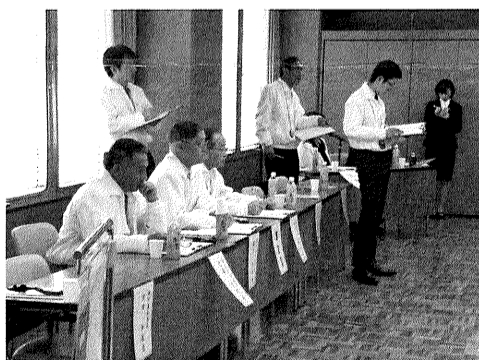
見事、中国地区代表となられた橋本選手に、中国大会の感想を書いていただきました



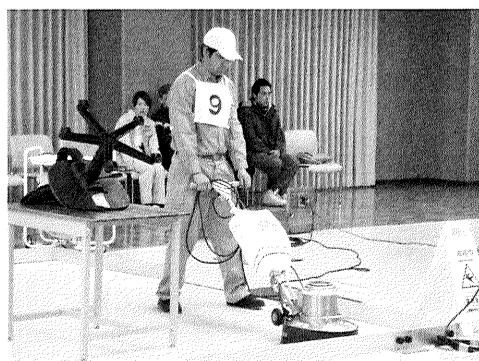
緊張の第1組 (奥: 井上選手、手前: 村上選手)



わずかなタイムオーバーだった北濱選手↑
 さすが2回目、安定感のあった木下選手→



真剣に競技を見つめる審査員



今大会で審査委員長を務められた藤井幹雄氏に岡山協会代表4選手について講評していただきました。

審査委員長としての感想

ビルメンテナンス業も若い人の定着率が増えて好ましい状況にある中、今回も素晴らしい大会となりました。

岡山から参加の4選手の講評

○北濱宣子(岡山県愛染会)タイム20分10秒

女性特有の身のこなし、ソフトさがあり、上位もとの期待が途中までうかがえたが、終盤丁寧との気持ちで働いた為タイムオーバーしたのが残念。

○清水政博(ジェイオール西日本岡山メンテック)タイム20分22秒

全体的にみて荒さが目立った。

森崎照美さんの代わりに直前になってエントリーの変更で、気持ちの整理がついてなかった様子を思えた。

○木下一彦(日本ビル管理)タイム20分04秒

前回の広島大会に出場され、今回が2度目のチャレンジでしたが4秒のタイムオーバーが致命傷、再チャレンジを・・・？ 参考までに前回は18分21秒でした。

○井上弘一(サピックス)タイム17分34秒

タイムが早い分、少し荒さが目立った。もう少し丁寧にしたらOKだったかも。次回に期待。

※16名中6名がタイムオーバーという結果でした。

※これからの課題、練習時に多数の人に見て貰い雰囲気慣れることが必要。

審査委員長 藤井 幹雄

岡山協会を代表して出場された4選手にも感想を書いていただきましたので、ご紹介させていただきます。

中国大会を終えて



岡山大会ではあまり細かく考えていなかった減点項目について、中国大会では一つ一つの動作に正確さを求められるため、綺麗に機敏に見せるにはどうしたらいいか考えました。

私のテーマは「スマート」でした。

スマートに動く＝無駄のない動き、綺麗に＝背筋を伸ばす

背筋を伸ばしてバキュームを引くときや、ポリシャのコードを巻く時に取り入れました。

しかし、大会本番では遠い現実を夢のように感じた20分間でした。

結果、タイムオーバーとなりました。

競技中「少し遅いかな？」と思ったのですが、隣のコートも同じペースだったので大丈夫かなと思ってしまい、「なんであの時もっとペースを上げなかったんだろう」と後悔しました。

今回の競技者8組16名のうちタイムオーバーはペア同士3組6名。やはり、隣のペースが見えるため、少しは影響しているのではないのでしょうか？

逆の意味ではハイペースになり、(ペースを引っ張られて)タイムオーバーにならなくて済むというメリットがある場合もあります。

しかし、全て自分のペースで出来なかった言い訳になります。

ライバルであり仲間でもある岡山代表の皆と頑張って練習してすごく楽しかったです。挑戦して良かったです。

最後になりましたが、指導して下さった協会の方、講師の方には本当に感謝しています。ありがとうございました。

公益財団法人岡山県愛染会 北濱 宣子

ビルクリーニング技能競技中国大会に参加して



今回、ビルクリーニング技能競技中国大会に出場させていただきました。予選会(岡山県大会)で入賞を逃し、自分の競技会は終わってしまったと思っていたところ、予想外の事態により、急遽出場することが決まった時は頭が真っ白になってしまいました。

不安と緊張で逃げ出したくなりました。しかし、会社の同僚、先輩から熱心に指導していただき、自分の駄目な扱いや、悪い癖などを指摘してもらい練習が楽しくなり、もっともっと上手になりたいと強く思うようになりました。

競技の結果は自分のミスによるアシデントなどで満足はいく結果ではなかったのですが、競技中はずっと楽しんで仕方がなく、まるで夢のような時間でした。

この経験を日々の業務に生かし、技術を高めていくとともに、この楽しさを皆に伝え、全国大会優勝を我社の仲間が果たすサポートをしていきたいと思っています。

今回、指導して下さった岡山ビルメンテナンス協会の方々、会社の方々、そして大会に携わって下さった多くの方々へ応援してくれました。皆様、本当にありがとうございました。

株式会社ジェイオール西日本岡山メンテック 清水 政博

ビルクリーニング技能競技中国大会に参加して



2回目の出場となる今回のビルクリーニング技能競技中国大会は、自分では悔いの残らない大会になった。1回目の出場の時には、「もっと出来る」「もっと努力できた」「全力を出し切っていない」と後悔しか残らない大会でした。

今回の出場では会社や先輩、同僚などいろいろな方に協力してもらいのおかげで納得のいく競技ができました。結果として上位3名にはなれなかったけれど、応援してくれる方々、指導してくれた方々には、自分の全力を見せることが出来たと思います。

この大会で得た知識、技術を生かして日々の業務に励みたいと思います。

日本ビル管理株式会社 木下 一彦

ビルクリーニング技能競技中国大会を終えて



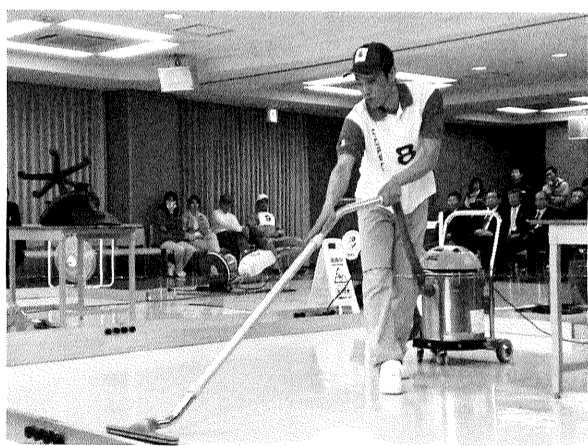
今回、ビルクリーニング技能競技中国大会に岡山県代表として出場させていただきました。初めての中国大会で緊張はしましたが競技内容としては自分の持っている力を十分に出し切った大会になったと思います。

結果は残念ながら入賞は出来ませんでした。貴重な経験ができました。また、他の技能士の方の競技も見せてもらい、いい刺激を受け学ぶこともできました。

中国大会までの間、岡山ビルメンテナンス協会の方々には練習場の提供、ご指導をいただきました。ありがとうございました。

このたびの経験を活かし、弊社より中国大会に入賞できる人材を教育し、また自分自身も再チャレンジしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

株式会社サピックス 井上 弘一



1位に輝いた橋本選手のバキューム作業↑



トラブルにも自分を見失わなかった清水選手↑

当日競技解説を務めた麻田広報委員長から

競技解説をさせていただきます

まずはお礼から。

参加くださった16人の選手のみならず、このたびは本場にありがとうございました。

なんといっても選手あつてこそその大会です。

そして大会は、選手がどれくらいその大会に懸けて参加してくるかによって値打ちが決まります。

いい実技を披露したい、そして勝ちたいという、純粹で真っ直ぐな想いを抱き、技能を磨くために惜しみない研鑽を積んでこられたみなさまが参加してくれたことで、12回目となった今回のビルクリーニング技能競技中国大会も素晴らしい大会になったと思えます。

さて競技解説という役割をいただいた自分はどうと、ビルクリーニング技能競技というものについて、本競技を知らない方にもわかりやすく見所を伝えたいと思つて臨みました。

たとえば見栄えのする技が随所で頻出するフィギュアスケートのような競技であれば誰がみても素晴らしいの伝わることを期待できますが、本競技は盛り上がり所を持たない平板な行程を淡々とこなす地味な競技とも一般の方には見られがちです。

それは本競技が技や工夫をことさらにアピールするよりも、むしろ人目に

曝さないように押し隠して行うことも多い競技であることにあります。

ビルクリーニング技能競技はその行程において様々な技能が測定されます。

いかに安全に配慮した作業ができるか、いかに良い品質を創造できるか、いかに効率的な作業ができるか、そして倫理観に基づく行動をいかにとることのできるかなどです。

それらはすなわち業界の精神性であり、本競技はビルクリーニングの精神性を世間にプレゼンテーションするため

のひとつのサンプルともいえるのですが、ともかくそのために必要となる高

等な技術や配慮に富んだ工夫の多くは、目立つことのない場所や時で何気

なさに包まれて発揮され、そっと競技を支えています。

それらのひとつひとつを取り出してスポットをあて、見ている方に示したかったわけですが、まあ少しは出来たので

なかるうかと思つています。

お相手を務めていただいた上村アナウンサーの高いファシリテーションの能力がうまく言葉を引き出してくれたおかげですが。

最後にもう一度選手のみなさまへ。1番観覧しやすい場所からみなさまの

ことを見させていただきました。競技会である以上入賞者が選ばれ、

それは一握りの方の栄冠なのですが、参加したすべてのみなさまが見せてくれたものはどれも最大級の称賛を受けてしかるべき素晴らしいパフォーマンスでした。

麻田 浩